

# 大和金 金型用の銅合金素材 20年販売量、倍増目指す

銅合金の鑄造品や鍛り、足元は好調。今後造品などを手掛ける大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は2020暦年(1~12月)、金型用素材の販売量倍増を目指す。欧米向けの高硬度銅合金厚板「C25」が主力。放熱性に優れた樹脂成型金型の販売が増加しており、

冷却時間を短縮できるため、ユーザーの生産性や成形精度などを高められる。また非常に硬いため鉄製の金型と遜色ない寿命を確保できることも特長。厚板の販売を増やし、ながら供給を拡大する方針。硬く厚い板は製造が非常に難しいが付加価値が高い。同社は差別化のため生産率や歩留まりを高めながら、需要に対応。1~6月の段階で、金型用素材の販売は前年同期比で2倍近い数量となっている。

今後は8月に稼働さ

せた1500ト油圧プレス機を活用し、さらに受注を拡大したい考え。強い力で加工するため生産効率が上がるほか、中心まで力を加えられるため金属組織を均一化でき品質がさらに向上する。併せて

欧米向けの需要対応に加えて国内やアジア圏向けの市場開拓も推進。通年でも販売量を倍増させたい考えだ。

萩野社長は「新型コロナの影響で主力の航空機・自動車関連の需要が鈍っているが、金型用素材の拡販によってその一部を補うことができれば」と期待している。



硬く厚い銅合金を高効率加工できる大型プレス機